

秋の深まりが感じられる頃となりました。皆様忙しい中にも充実した日々をお過ごしのことと思います。今回はリレーコラムとしてかねてからお願いしていた嘉瀬教育長の「我が家の子育て」と今までなかったちょっと珍しい家庭教育学級の様子をご紹介します。参考にさせていただけたら幸いです。

楽しかったね



ぐるぐるしたら
きれいなスライムに

9月21日(水)むつみのおか幼稚園での家庭教育学級は「親子ふうせんスライム作り」でした。講師は千葉県立現代産業科学館の須賀さんと河西さん。紙コップにのり・お湯を入れ、好きな色の食紅をちょっぴり、それからほう砂を入れてかき混ぜると・・・スライムのできあがり！それをストローでそっと吹くと風船スライムができました。失敗したらやり直し。ビニールに入れて口を縛っておけば1～2カ月使えるそうです。親子での楽しい時間になりました。

現代産業科学館ではこのような出前講座を行っているそうです。興味・関心のある方はご相談ください。



ぬり絵セラピー



10月7日(金) 松尾小学校

絵に色をぬるだけで本当の自分がわかって本当？色にはそれぞれ意味があり、心の状態を映しているということです。例えば黄色のイメージは「楽しい人・仲良し」、青は「誠実・まじめ・信頼できる人」だそうです。自分のタイプや身近な人との関係などが選んだイラストやぬった色から分かります。「あ～、やっぱり」「へえ、そうなんだ」「子供と一緒にやってみたいね」楽しく色をぬりながら意外な自分を発見したり、納得したり・・・最後にこんなこともやっ



その人のイメージに合う色をぬっています。他の人からどんなふうに見られているかが分かります。

ていますと紹介してくれたのは、選んだ色から過去現在未来が分かるというものでした。いろいろな色の意味を知ってうまく生活に生かしていきたいものですね。



10色から6色を自由に選びます。そこから過去・現在・未来を分析します。今が辛くても明るい色を身につけるようにすると明るい未来になるそうです。

山武市教育長 嘉瀬 尚男

我が家では三人の子育てをしてきました。今改めて振り返ってみても、取り立てて書き示すようなことは思い浮かびません。特に意識することもなく自然体で接しながら、その時々のことに対し、親として家族としてしっかりと出来る対応をしてきたということぐらいです。

我が家は祖父母を含む七人の三世代同居でした。私は家業を継ぎお店の営業をしていましたが、仕事先の店舗は自宅の隣でしたので多くの時間を家族と共にすることが出来ました。おかげさまで、他の多くのお父さん方よりも子ども達と一緒に過ごす時間が長かったと思います。とは言っても忙しい中、ただ見ている時間が少し多くあったというだけで、ほとんどのことは妻まかせでした。しかし今、子ども達をよく見ることを知ることが親として大切な事だということを、改めて思います。

幼い三才頃までに形成された性格や性質は、大人になっても変わらず続いていくということです。「三つ子の魂百まで」と言われますが、自分子ども達を見てきて感じたのは、幼い頃の環境や経験から形成される面の他に、それぞれの子が持って生まれた性格がすでに有るということです。それこそ百まで変わらぬ個性が備わっているのです。

実際に子育てをするまでは、幼児期にしっかりと躾や教育をすることによって子どもの性格が作られるので、どんな人間に育つかは親の責任だと思っていました。もちろん躾や教育は大切であり、それによってどんな大人になるか大きく影響します。しかし、人としての個性、性格までコントロールすることは出来ません。当たり前じゃないかと言われることかもしれませんが、同じ親から生まれ、同じ環境で同じような生活をしているのに全然違う兄弟を見ていて改めてそう気づいたのです。

その時から、自分たちの子でも、まだ何もわからない幼い子でも一人



の人間として接し、何を感じ何を考えているのかを大切にしました。そして、なるべく制限を加えず、自分のしたいこと考えることをさせるようにし、人に迷惑を掛けないといった基本的な部分を間違わない限り口も手も出ませんでした。この基本的な点については妻が厳しく躾けていたので、私の方が少し甘くなってしまう反省させられることがしばしばありました。普段の生活では、家族内でも挨拶をきちんとすること、食事はなるべく家族そろって食べること、休みの日でも朝はいつも通りきちんと起きること、決められたことや約束はきちんと果すことなど、本当に当たり前のことをしてきただけです。子どもは親の姿を見ている、子は親の鏡ということを意識して、子どもが変な仕草や格好をしていたらまず自分たちを振り返る、ゴミが落ちていたら拾わせる前にまず拾うなどをしてきました。

もう一つ我が家のルールとして食事の時にはテレビをつけないというのがあり、今でも徹底しています。家族がそろって会話出来るこの時間を妻がとても大切にしていました。子どもの成長と共に話題も変化し、時には食事の後も祖父母の話聞いて考えたり、その時々々の事件や社会での出来事について話したりということもありました。こんな感じの子育てでしたが、上の二人は無事に社会人となり、下の子ども大学生となってサークル活動で忙しく充実した日々を過ごしているようです。

今やりたいこと出来ることを一生懸命やって楽しむこと、そんなのんきな事を言っている父親の私と、色々と大変な事も多かった様子を知って「自分で決めて始めたことなんだから諦めないでがんばりな。何とかなるよ。」そう言って励ましてきた母親の妻と、何も言わずにかわいがってくれた祖父母の中で育ってきた我が子たち。今は、我が家の子育ても何とかなったのかな、と思っています。